



TITLE:

<大會抄録>元代郷村の戸等制

AUTHOR(S):

柳田, 節子

CITATION:

柳田, 節子. <大會抄録>元代郷村の戸等制. 東洋史研究 1975, 34(3): 456-457

ISSUE DATE:

1975-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153582>

RIGHT:

者の支拂う生産物の十分の一（この場合の複數形は *a'shar*）および商業稅（この場合の複數形は *'ushur*）を意味する。ただし商業稅の課稅率はムスリム商人が四十十分の一、ジンミー商人が二十十分の一、ハルビー商人が十分の一。

(二) ウマル二世の敕令「ウシュールは耕地の所有者以外からは廢止すべし」。

(三) ギブの説 (*Arabicca*, II, 1935, p. 12)。

(四) フォランドの説「ウシュールは常にムスリムまたは非ムスリムに課せられた非合法稅、あるいはジンミーの商人および職人に課せられたジズヤを意味する。敕令のウシュールは前者」 (*Arabicca*, XIII, 1966, pp. 137—41)。

(五) ウシュールがアーシヤールと同じく用いられることについて。

(六) アブー・ウバイドの意見「商人から十分の一を徵收するのは、アラブおよびアジャムの諸王のジャーヒリーヤのスンナ。イスラムのフアリーダは四十分の一で、これ以上の率を徵收することが非合法」 (*Kitāb al-Annāl*, nos. 1638, 1640, 1641)。

(七) フアリーダと合致しない傳承。(1) ウシュールはムスリムになくジンミーのみ。(2) ウマル一世はムスリムからウシュールを徵收せず。

(3) ウマル一世はジャーヒリーヤの制度に従いジンミーからウシュールを徵收。ただしナバタイ人の小麥のみ二十十分の一 (*ibid*, nos. 1632, 1639, 1660, 1667)。

墓誌についての二、三の考え

日比野丈夫

通説によれば、墓誌は魏晉にかけて立碑の禁が嚴重になつてから、小型の碑を作つて墓中に埋めたのがもとだといわれる。しかし、小型の碑を埋める風習はもっと早く後漢の初めから行われたのではない。前漢にはその風習がなく、地上には木の墓表を立て、墓中には必要があれば買地券を埋めたのであろう。

中國では本籍を尊重し、いかに遠隔の地で死んでも遺骸は故郷の祖先の地に葬るのが原則であつた。従つて、それがいろいろな事情で不可能となり一時的に他郷に葬つた場合、この事情を記して墓中に埋めたのが墓誌の始まりだつたのではないだろうか。つまり、いくつか機會を得て發掘し改葬することを豫期して、將來に備えたものであろう。後漢末から中國は動亂の渦中におちいり、ことに四世紀末からおこつた胡族の華北侵入、引き續く晉の南渡はますますその必要を高め、墓誌の製作が普及するに至つたのではないかと思う。

元代鄉村の戸等制

柳田節子

元代の戸等制については、これまで主として、モンゴルに固有の稅糧・科差制との關係で考察されてきた。中國の國家の建設を意圖

した世祖の中統五年（一二六四）、三等九甲の戸等制と鼠尾簿にも、つづく差發の科徴が定められたが、この戸等制については、元が中國本土に支配を擴大して行く過程において、宋代戸等制支配を繼承し、あらたな鄉村支配を展開して行った側面からも、捉えなおしてみることがあるように思われる。

戸等は、事産・丁産・氣力産業・田の多寡・税粮の多寡等にもとづいて、上中下三等に分けられ、和雇・和買・一切の雑泛差役、更には、助田や種時の法の賦課にまで適用されている。この間の戸等とももろの差發との對應關係、鼠尾簿作成との關係について、宋代鄉村の戸等制支配と關連させて考えてみたい。戸等と賦課對象との對應關係は、宋代のように明確ではないが、元代でも一定の對應關係が確認出来る。江西では、里正・主首の當役基準は税粮一石以上であったし、その他、弓兵・獄卒・祇候・曳刺・舖兵等についても、三石一石、二石一石、一石一〇・五石等、苗税額基準で賦課されている例もある。これら税粮額と戸等との對應關係も考えてみたい。

「吐蕃」「羊同」の名稱について

佐藤 長

「吐蕃」という語が何を寫し、何を意味したかは現在不明である。Rockhill は Stod bod（高いチベット）の音譯とし、最近、山口瑞鳳氏は Lho phyawa（南のチャー族）の音訳とした。しかしこれらは共に、「吐蕃」なる語が唐に傳わる中間に吐谷渾が介在

したことを考えていない。恐らく「吐蕃」は吐谷渾の中央チベットに對する呼稱で、それが唐に傳えられたものと考えられる。又「羊同」も吐蕃の西にあると云われるが、ギャンツェ中心のツァン地方を指しているに相違なく、大羊同國はギャンツェ中心地帯、小羊同國はシガツェ中心地帯であろう。これも實は吐谷渾語を介在させてはじめて理解できることである。國名、種族名は直接的のみでなく、リレー式に傳わった場合があることを忘れてはならない。

會 告

近來の諸經費高騰のため、本誌の刊行がきわめて困難な状況となつて参りました。

就きましては、本卷會費を左記の如く暫定的に改定致しますので、御了承下さいますようお願い致します。

暫定會費（年間）

二、五〇〇圓

舊會費（年間）

二、〇〇〇圓

事情御賢察の上、今後とも、從來に倍する御支援、御協力を賜りたくお願い申し上げます。

東洋史研究會